

第1章 苫小牧市の概要

第1節 地勢・気象

1 位置及び面積

苫小牧市は、道央南部に位置した太平洋に面しており、支笏洞爺国立公園の樽前山の麓に開かれ、周囲には支笏湖などの湖沼や清流のほか、広大な森林などがあり自然環境に恵まれています。東にはウトナイ湖を有する勇払原野が広がり、自然と身近に接することができる街です。

また、国際拠点港湾の中で中核国際港湾に指定されている苫小牧港を有し、鉄道幹線や国道、高速自動車道などの陸路交通のアクセスポイントであり、新千歳空港に隣接した北海道の海と空と陸の交通の要に位置しています。



北海道陸路交通の拠点都市

- 鉄 道** JR室蘭本線、千歳線、日高線への分岐点
- 国 道** 36号(札幌、室蘭方面へ)
234号(岩見沢方面へ)
235号(日高方面へ)
276号(ニセコ方面へ)
- 自動車道** 道央自動車道へ東西2か所のインターチェンジで直結高規格道路(日高自動車道)の起点

位 置	東 経	141° 36' 34"
	北 緯	42° 37' 53"
広 ぼ う	東 西	39.9 km
	南 北	23.6 km
	周 囲	124.5 km
標 高 (海 抜)		6.651 m
面 積		561.58 km ²

資料：苫小牧市統計書

2 気 象

■月別概況（令和元年（2019年））

	平均気温 (°C)	最高平均 気 温 (°C)	最低平均 気 温 (°C)	平均湿度 (%)	平均海面 気 圧 (hPa)	降水総量 (mm)	平均風速 (m/s)	日照時間 (h)	降雪量 (cm)
1月	-3.5	0.7	-8.2	72	1,013.0	20.5	3.2	153.0	37
2月	-3.2	1.1	-8.0	71	1,016.0	26.0	2.9	152.0	24
3月	1.4	5.4	-3.1	74	1,011.3	31.0	3.2	180.4	12
4月	5.4	10.3	0.6	74	1,011.5	39.5	2.8	238.7	—
5月	11.4	15.8	7.7	80	1,011.4	98.5	2.7	256.1	—
6月	14.5	17.6	11.9	88	1,009.2	97.5	3.1	133.3	—
7月	18.1	20.6	16.3	93	1,011.0	193.5	2.8	83.8	—
8月	20.9	23.9	18.1	88	1,009.3	253.5	3.6	126.0	—
9月	18.5	22.9	14.1	79	1,014.9	88.5	2.9	198.8	—
10月	12.6	17.2	7.1	78	1,017.7	261.0	3.7	158.3	—
11月	3.7	8.6	-1.5	69	1,016.5	49.0	3.2	151.9	—
12月	-0.9	3.7	-5.7	73	1,017.4	59.0	3.1	115.6	14

※ 降雪量における「—」は「降雪なし」または「1cm未満の降雪」を示す。

資料：室蘭地方気象台

■気象極値

区 分	極 値
最高気温	35.5°C (平成19年(2007年)8月15日)
最低気温	-21.3°C (昭和20年(1945年)1月18日)
月最大降水量	697.0mm (昭和56年(1981年)8月)
月最小降水量	7.0mm (平成15年(2003年)2月)
日最大降水量	447.9mm (昭和25年(1950年)8月1日)
日最大降雪量	47cm (昭和43年(1968年)2月20日)
最深積雪	77cm (昭和53年(1978年)3月11日)
最大風速	31.8m/s 風向・南 (昭和29年(1954年)9月26日)
最大瞬間風速	38.6m/s 風向・南東 (昭和56年(1981年)8月23日)
最低海面気圧	965.0hPa (昭和45年(1970年)1月31日)

※ 極値は、気象官署観測開始からの値を使用する。

資料：室蘭地方気象台

※ 最深積雪は、平成16年(2004年)10月1日に特別地域気象観測所となったため統計切断となり参考値。

第2節 歴史・沿革

北海道には古くからアイヌ民族が暮らしており、苫小牧地方においても15世紀の半ば頃、道南に館を構えた小領主によって、アイヌ民族と和人の交易が行われていました。

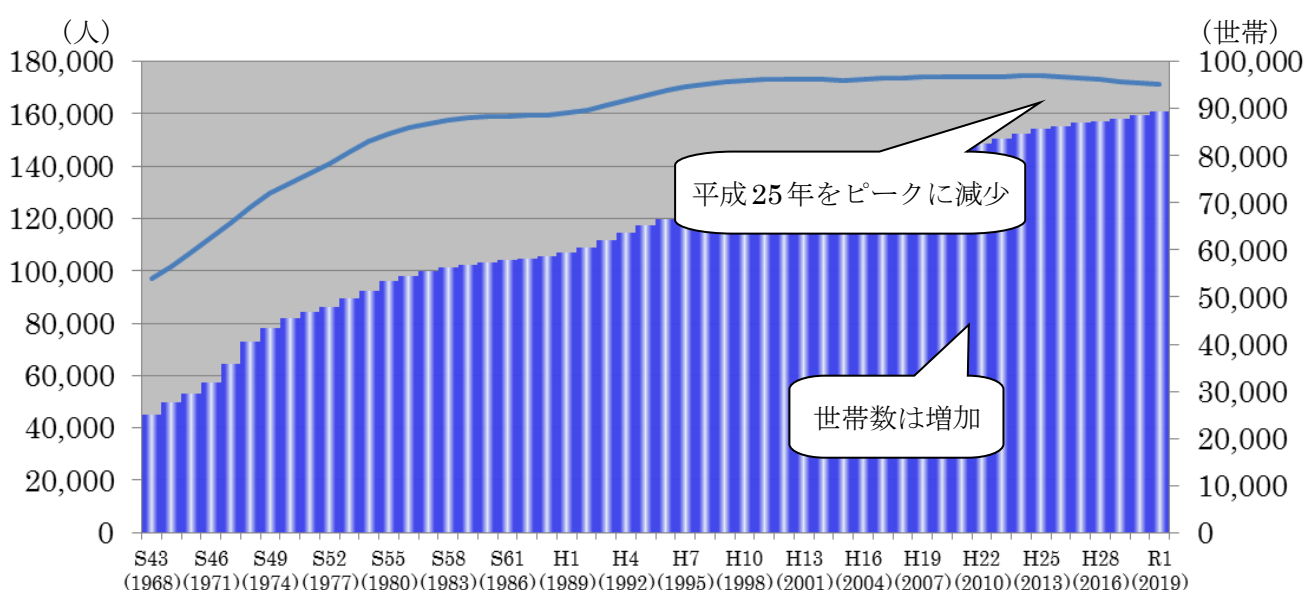
寛政12年(1800年)になると、現在の東京都八王子市から八王子千人同心が勇武津(勇払)に移住し苫小牧の礎となり、明治6年(1873年)開拓使が、勇払郡出張所を苫細(苫小牧)に移転し本格的な開拓が始まります。明治43年(1910年)製紙工場の操業開始を契機に工業都市として歩みはじめ、昭和26年(1951年)国家レベルの事業として日本初の内陸掘込港建設に着手、現在の苫小牧港(西港)が築かれました。

高度経済成長期に入ると東部大規模工業基地の開発に伴って、昭和51年(1976年)東港区の建設に着手、昭和55年(1980年)に第一船を迎え入れ、平成13年(2001年)から内貿取扱貨物量全国1位、平成27年(2015年)には港湾取扱貨物量全国4位まで成長し、現在では製紙業をはじめ自動車部品製造業などの多種多様な企業が立地し、北日本有数の流通港湾を有した総合工業都市として、発展し続けています。

第3節 人口

苫小牧市政が始まった昭和23年(1948年)の3万3千人から、経済成長期に16万人まで増加し、平成25年(2013年)の17万4千人をピークに人口減少傾向にあります。令和元年(2019年)12月末現在の人口は171,242人(世帯数89,460世帯)となり、前年末から569人の減(915世帯の増)、対前年増減率は▲0.33%(1.03%)で、6年連続で減少しています。

■人口及び世帯数の推移



資料：苫小牧市統計書

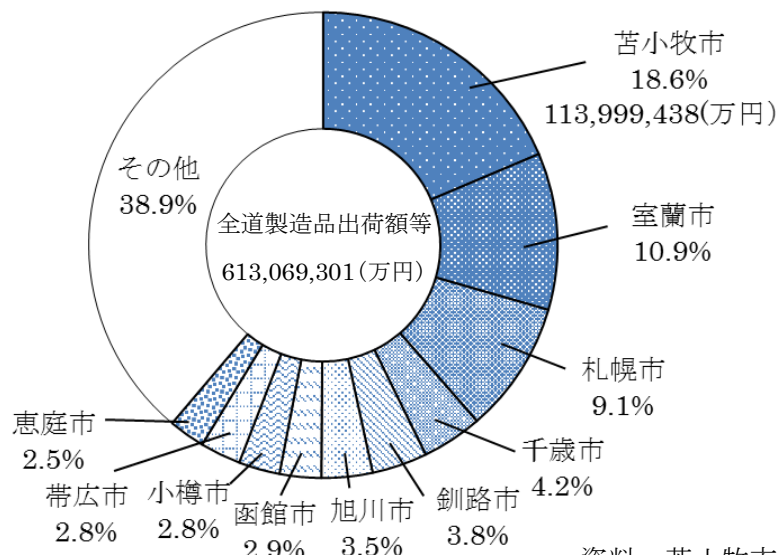
(注) 平成24年(2012年)7月以降の人口は、断りのない限り住民基本台帳法の改正により、外国人住民を含む。

第4節 産 業

苫小牧市は道内最大の工業都市であり、製造品出荷額等では、人口で10倍以上を有する札幌市を上回り、北海道全体の18.6%を占めています。その中でも、石油製品・石炭製品製造業、輸送用機械器具製造業、自動車部品製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業が特に盛んです。

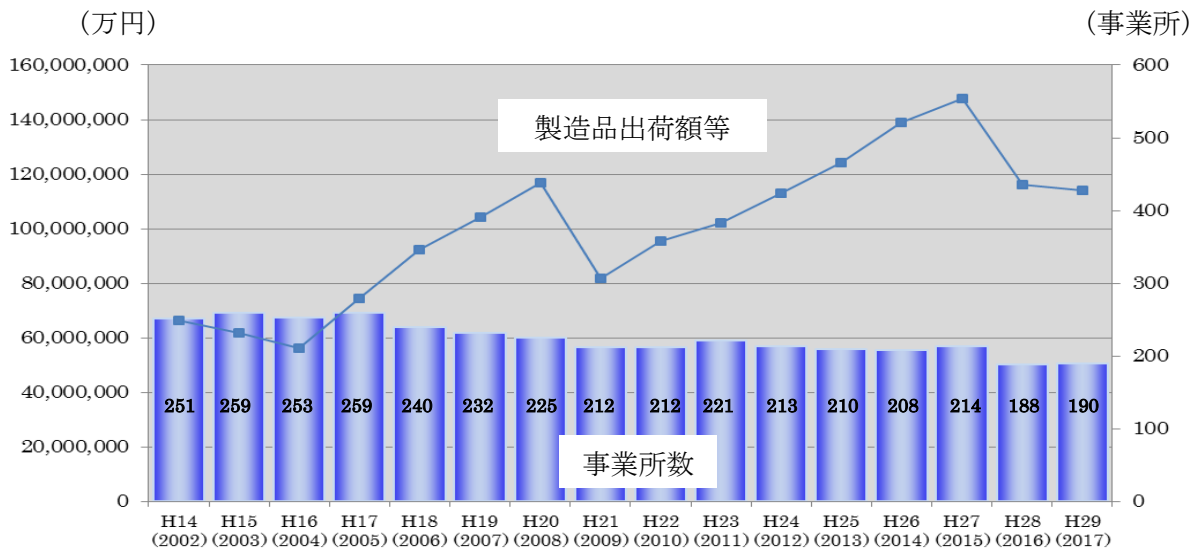
また、苫小牧市における製造品出荷額等とその事業所数の推移を見ると、事業所の大型化傾向も見られます。

■製造品出荷額等道内都市別割合（平成29年（2017年））



資料：苫小牧市統計書

■苫小牧市における製造品出荷額等及び事業所数の推移



資料：苫小牧市統計書

※ 「製造品出荷額等」とは、製造品出荷額、加工賃収入額、その他収入額及び製造工程から出たくず及び廃物の出荷額の合計である。